



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2012-2013年度 R I 会長 田中 作次

●クラブテーマ「調和・Balance」●



第2590地区 ガバナー
露木 雄二

- 会 長 飯田 泰之
- 会長エレクト 伊東 英紀
- 副 会 長 山田 正憲
- 副 会 長 吉田 隆男
- 幹 事 西山 潔
- 副 幹 事 山本 芳弘
- 会 計 朝日 達夫
- 副 会 計 金森 欣一
- S A A 横溝 亘
- 副 S A A 矢野 修二
- 副 S A A 河野 明光
- クラブ会報 森 永 健



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和51年5月29日
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2012-2013年度 第16週報 No. 1763 2012年(平成24年) 10月26日 第1763回例会記録 11月2日発行

司 会 山本 芳弘 副幹事

結婚記念日祝 天野 公史 会員 (10月29日)
横山 範夫 会員 (10月31日)

点 鐘 飯田 泰之 会長

斉 唱 「手に手つないで」

四つのテスト 長井 章 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 志村 雄治 様 (地区R財団委員長)

ビジター紹介 横浜R.C 岡山 健一 様
神奈川R.C 天羽 栄作 様
神奈川R.C 金野 克佐 様



本日〈11月2日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献 立 幕の内弁当
- ◆ 卓 話 「ヨーロッパ最大の音楽イベント『ユーロヴィジョン・ソング・コンテスト』に見るヨーロッパ」
音楽評論家 山岸 伸一 様
(紹介者 小山 市康 会員)

会長報告

飯田 泰之 会長

- ・米山奨学会より米山奨学生カウンセラー田邊会員に委嘱状が届いておりますのでお渡しします。



幹事報告

西山 潔 幹事

- ・次週の例会終了後に職業奉仕によるクラブフォーラムを開催致します。大勢の出席をお待ち申し上げます。
- ・本日、東日本大震災被災地支援のアンケート用紙を配布致しましたので、ご協力をお願いします。

委員会報告

国際奉仕委員会 委員長 白鳥 厚夫

本日10月26日例会後、3階ナイトで第2回国際奉仕委員会を開催致します。

議題は、約束の6つのテーマを実行するため、主な課題のリーダーを決めることと、どの範囲まで神奈川東R.Cとして引き受け実行するかです。

どうぞ皆様の知恵、お金と汗をご提供願います。

スマイルボックス

河野 明光 副SAA

第2590地区R財団委員長(川崎日吉R.C) 志村雄治様

今日はR財団未来の夢計画について、お話させていただきます。

横浜R.C 岡山健一様

久しぶりにお伺いしました。よろしくお願い致します。

神奈川R.C 金野克佐様

お世話になります。

横山範夫君 結婚記念日祝い、ありがとうございます。36年目になりました。よくもったものだ。

天野公史君 結婚記念日祝い、ありがとうございます。23年になりました。あっという間でした。これからは、どのような表現の時間になりますやら・・・。本日は所用の為、欠席します。

飯田泰之君 ①志村地区R財団委員長様、本日は卓話、よろしくお願いします。②金野様、ようこそいらっしゃいました。③吉田さん、渡邊さん、お世話になりました。

山本 登君 今日は間に合いました。タイガースレポートがまだ出てない。

加藤仁昭君 横浜R.Cの岡山さん、ようこそ。前年度、お互いにお疲れ様でした。

西山 潔君 志村様、本日はようこそいらっしゃいました。卓話、よろしくお願い致します。

我妻隆邦君 大枚5000円で10月の「月間スマイル大賞」を謹んで頂戴致します。

渡邊 淳君 ①横浜開港資料館におきまして、「近代ヨコハマ起業家列伝」のタイトルのもと企画展が開催され、その中で弊社の創業者「渡辺忠右衛門」についても取り上げて紹介頂きましたので、おついで折に是非ともご高覧賜りたく、BOXにご案内とご招待券を入れさせて頂きました。本日、所用にて欠席させて頂きますので、取り急ぎスマイルにてご挨拶させて頂きます。②岡山さん、よくいらっしゃいました。入れ替わりで失礼します。

山田正憲君 志村R財団委員長、本日はご指導のほど、よろしくお願いします。

茂木知子さん ~真のロータリアンとは~チャリティーディナーパーティーの際、トイレで停電に見舞われました。館内も真っ暗なのか、一筋の光もない暗黒の闇。数人のロータリアン、あるいは関係者がいました。闇の中から凛とした若い女性の声がありました。

「皆さん、落ち着いて下さい。私がドアを見つけますから。」彼女がドアを見つけ、弱い光が射しこみ、館内ではスタッフが走り回っていました。当クラブの新世代奉仕委員長は彼女の開けてくれたドアを真っ先にすりぬけ、ホールへ飛び出していました。

友添辰哉君 地区R財団志村委員長、本日の卓話、よろしくお願いします。

白鳥厚夫君 本日、例会終了後、第2回国際奉仕委員会を3Fナイトで開催致します。よろしくご参加下さい。

河野明光君 娘に「孫たちは私が言うのと素直に聞き入れるのに、何故、お前たちの言うことは聞かないのかな?」と問いますと、「誰がお金を持っているのか、あの子たちは既に感じ取っているのよ。」とさり気なく言われました。

10月26日	16件	43,000円
本年度累計		804,000円

出席報告

竹山 洋 出席委員長

会員総数	55名	(38+17)名	
出席会員数	39名	(27+12)名	
出席率	78.00%		
ゲスト	1名	ビジター	3名
前回補正後	90.39%	前々回補正後	92.16%

「ロータリー財団・未来の夢計画について」

第2590地区R財団委員会 委員長 志村 雄治 様
 (紹介者 R財団委員会 委員長 友添 辰哉)



いつもR財団へご寄附を頂き、心から感謝しております。今後もよろしくお願い申し上げます。

1. R財団の歴史と現況

1917年アーチ・クランフが提案し、1928年にR財団と命名されました。1947年ポール・ハリスの死後、爆発的に基金が集まり、以後国際親善奨学生、GSE、ロータリー平和フェロー、地区(人道的)補助金、マッチンググラント、ポリオプラス等の活動を展開しています。

2. R財団現在のシステム・・・シェアシステム

年次寄付総額と恒久基金の運用益の合計額の50%が3年後に地区資金(DDF)と国際活動資金(WF)として配分されます。

3. R財団の問題点

WF特にマッチンググラント等奉仕プロジェクトの急激な増加により、R財団本部(TRF)が審査と事務手続きに忙殺されています。その結果、TRFの肥大化とコストパフォーマンスの悪さが目立ってきました。

4. R財団の改革のポイント

R財団の第2世紀へ向けて、効果的で効率の良い支援方法を考えるため、今までのR財団の長所を土台として、持続可能な成果の実現を目指します。そこで、「未来の夢計画」が考えられました。

5. 未来の夢計画の基本

- (1) 世界で最も必要とされる、持続的で効果的な大きなプロジェクトに集中します。<WF、パッケージグラント>
- (2) 地区の裁量に任せる「新地区補助金(DDF)」は、クラブ

と会員が主体となる、地元地域社会や海外への奉仕活動で、地区の特徴を活かした小規模な奉仕プロジェクトです。

- (3) DDFとWFを組み合わせた「グローバル補助金」は、比較的大きな奉仕活動(3万ドル以上)とし、海外への人道的・教育的なプログラムで、持続的で将来現地の協力者へ移管できるもの、あるいは海外への留学、職業研修(VTT)等が考えられます。<スポーツで例えれば、オリンピックのような大きな効果があるプロジェクトを考えましょう>

6. 今後の対応

- (1) 今年度は、まず地区としてのMOU(覚書)を送付し、計画年度にあたるので、地区としてグローバル補助金と新地区補助金の内容を決定し、ネット申請します。
- (2) 各クラブとしては、できるだけ全てのRCがMOU(覚書)を地区に提出し、クラブとしての奉仕活動を検討してグローバル補助金か地区補助金を地区に申請します。
- (3) 地区は、その内容を審査し、効果的で持続可能なプロジェクトを選び、TRFにネット申請をします。

2012-13年度 7月～10月
テーブルミーティング報告

テーマ「ロータリアンに必要な調和とは」

【第1テーブルミーティング】

平成24年10月5日(金)例会終了後 3F「ナイト」にて

テーブルマスター：長井 章 サブマスター：朝日 達夫

難しいテーマにもかかわらず、活発な議論がなされました。また夜だと参加が難しい方もいるので、昼間のテーブルミーティングということで好評でした。

【第2テーブルミーティング】

平成24年10月4日(木) 「Bistro du port 銅鑼」にて

テーブルマスター：金森 欣一 サブマスター：江森 国一

参考資料：2012～13年度 クラブテーマ 「調和」Balance

今回のテーブルミーティングはサブマスター江森会員の同級生が経営されているビストロで開催致しました。

会長、幹事をはじめ総勢16名の方にご参加頂き、活発な討議が出来ました。

まず、飯田会長にご挨拶を頂き、今年度の我クラブのテーマである「調和」についてお話し頂きました。「調和」には行動・思考・感情などが和合するハーモニーの意味と心の落ち着き、平静の均衡を保つバランスの意味の両面がありますが、組織には時としてバランス感覚に欠けた、偏重、独善、派閥などがみられることがあります。我クラブがそのような事態に陥らない様に、会員各位が意識を高めて欲しいという内容でした。

その後、各会員よりゴルフや音楽に例えたバランスの取り方のお話などが出ましたが、某PPによれば歴代会長・幹事の内およそ70%がこの調和をクラブテーマとしているということでした。

それぞれの会員の事業所でもONとOFF、新規顧客と既存顧客など色々な側面でどの様に調和を取るかということが問題になると思いますが、大きな基軸の中で調和を図っていくことが大切なのだと思います。

ともあれ、「ロータリーはホッとする場所であって欲しい。」という意見には大賛成です。

お店がビストロということもあり、ビールに始まり、ワイン、シャンパンと進み、更に焼酎や日本酒など皆さんが上手にチャンポンの「調和」をはかっているのには脱帽でした。

クラブ経験豊富なPPも多数ご参加頂き、出席頂いた方全員から貴重な意見を拝聴することが出来ました。

【第3テーブルミーティング】

平成24年8月30日（木） 「エスカイアクラブ 横浜店」にて
テーブルマスター：白鳥 厚夫 サブマスター：川邊 正男

- ・ロータリアン同志前向きな調和を。
- ・相手と仲良くなって人間関係を作るところから生まれる。
- ・協調・共生・自然体な行動から気持ちよく交流が可能、異業種交流なので刺激的な調和が出来る。
- ・ロータリーに40歳で入った。当時クラブの出席率は100%が続いていた。それを欠席して破った。100%出席を破って入会者が増えたり、良い意味のメリットがあった。仕事優先、自然体で、自分自身の個性を出して、例会に出席して良かったと思える様に、またお互いに切磋琢磨することも重要。
- ・ロータリーは強制ではない。国際ロータリーに所属して奉仕している者は偉いと思う。
- ・皆調和を守っている。調和は大事なテーマです。
- ・4つのテストを守ることに尽きる。皆パワフルでハートフル。大橋さん欠席しているが暖かく見守って。死ぬまで皆と付き合いたい。
- ・毎週例会がある訳なので普段の生活に組み入れて、クラブにいたいという自分の気持ちをきちんと持つこと。所属したい。

ロータリーニュース

職業奉仕で若者へのキャリア支援を

セント・ジョセフ・ベントン・ハーバー・ロータリー・クラブ（米国ミシガン州）は、職業奉仕プログラムの一環として、地元の高校2年生と3年生に、それぞれが関心を持つ業界で活躍する職業人と接する機会を提供し、キャリア開発支援を行っています。これは、クラブが2008年に始めたメンター・プログラムであり、普段見

ることのできないさまざまな職業の舞台裏を紹介することで、職業的関心を高めることを目的としています。参加した学生たちは、各業界で活躍する業界人から、夢をつかむためのアドバイスを受けることができます。参加学生の選考は地元の学校が行います。

このプログラムには、これまで300人以上の高校生が参加し、弁護士、医者、フォーチュン500企業のCEO、放送ジャーナリスト、警察官、プロのフットボール選手など、幅広い職業のメンターと交流しました。その場には2人のロータリアンが同行し、プログラム終了後、参加した高校生たちはクラブ例会で結果報告をすることが求められています。

クラブ会長でプログラム委員長でもあるジャッキー・ヒューイさんは、このようなプログラムの実施を通じて、学生のキャリア目標や進路変更を支援していると話します。

2012年度にプログラムに参加したテリー・ラフォレストさんの夢は、気象予報士になることでした。クラブはそんなラフォレストさんのために、地元テレビ局で活躍する気象予報士を訪問する機会を手配しました。訪問後、ラフォレストさんは気象予報士の仕事そのものは自分に合っていないと感じたものの、環境科学への情熱を新たにしました。

「実際にテレビ局のスタジオを訪問するなど、ロータリーの支援がなければ不可能だったと思います。あの訪問で、自分は放送業界にあまり向いていないことが分かりましたが、代わりに、環境科学の分野に興味を持つきっかけとなりました。このプログラムに参加したおかげで、工学と環境科学を同時に扱うような分野に進むという目標ははっきりしました」とラフォレストさん。

ヒューイさんによれば、このプログラムの成功がきっかけとなり、2月に新しいインターアクト・クラブ（セント・ジョセフ・ベントン・ハーバー・インターアクト・クラブ）の結成に至ったとのこと。2週間後には、会員数が60人まで増えました。また、ヒューイさんが2012年RI国際大会でこのプログラムについて紹介したことから、スコットランド、ニュージーランド、インド、ペルー、日本でも同じようなプログラムを始めようという動きが高まっています。



セント・ジョセフ・ベントン・ハーバー・ロータリー・クラブ（米国ミシガン州）による職業奉仕プロジェクトの一環で、地元テレビ局の気象予報士と面会した高校生のテリー・ラフォレストさん

ロータリー・ニュース

次回《11月9日》の卓話予定

テーマ「筆跡心理学を人生に生かす

—文字から自分や相手の性格が怖いほど当たる—」

筆跡鑑定人 根本 寛 様

（紹介者 茂木 知子 会員）